

小学校第6学年国語科学習指導案

日時：平成23年10月7日（金）

場所：八代市立有佐小学校 第6学年教室

授業者：教諭 近松 茂治

1 単元名 自分の考えを明確に伝えよう『『平和』について考える』

資料 「平和のとりでを築く」

2 単元について

(1) 単元のねらい

本単元は、「平和」をテーマに意見文を書いたり、スピーチをしたりする言語活動を通し、「書くこと」と「話すこと・聞くこと」を関連させて指導することをねらいとしている。

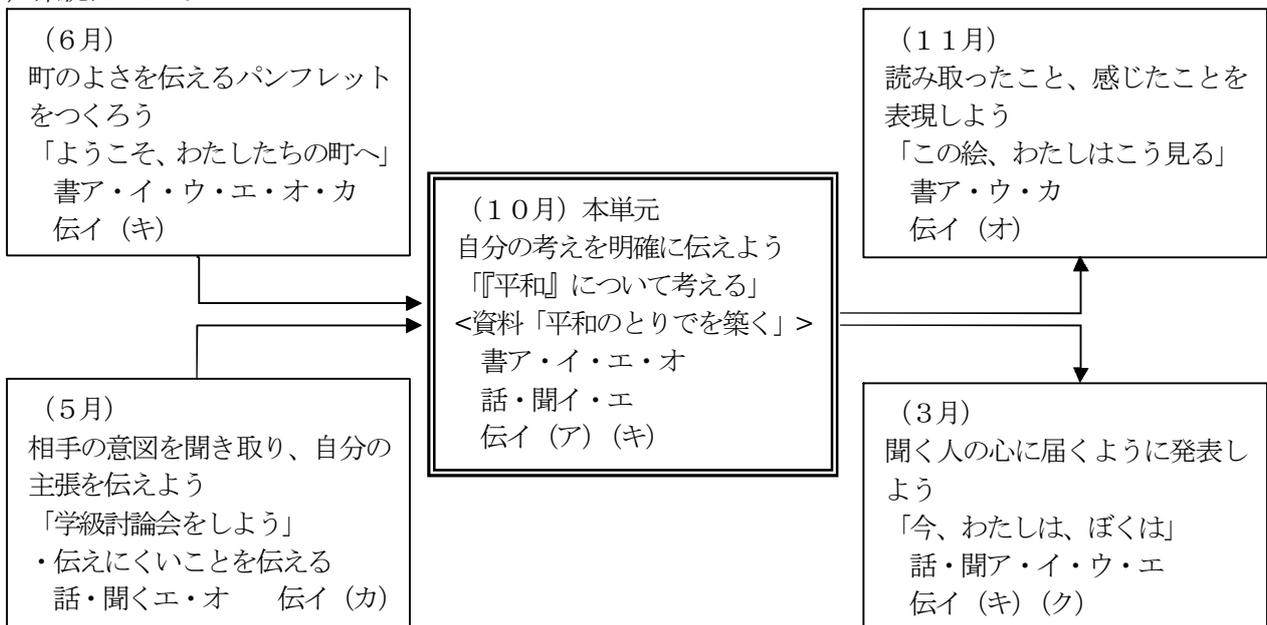
児童は、1学期の長崎への修学旅行に際し、一発の原子爆弾によって長崎市が大きな被害を受けたという事実を、被爆体験講話や施設の見学を通して体験的に学んでいる。資料「平和のとりでを築く」は、長崎市と同じく一発の原子爆弾によって大きな被害を受けた広島市で、その象徴でもある「原爆ドーム」が世界遺産に登録されるまでの歴史的事実を通し、平和を守るためには人々の心の中に「平和のとりでを築く」ことが必要であるということを訴えている。

児童は、筆者の主張と今までの自分の「平和」に対する考えとを比較することを通し、新たな課題を発見することができる。その課題をもとに自分の考えを仮の要旨としてまとめ、それが説得力を持つような具体例や資料を集める中で要旨を確定し、効果的な構成を考えながら意見文を書いていく。学習の中では、自分の意見が説得力をもつようするには、どのように文章を引用すればよいかも学ぶことが必要になる。

更に、自分の意見をスピーチするという目的で、意見文をもとに話の構成を工夫したり、場に応じた適切な言葉遣いで話すことや、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどしてそれぞれの考えを広げ合う学習も行うことができる。

自分にとっての「平和」とは何かをじっくり考えながら、「書くこと」と「話すこと・聞くこと」の力を、総合的に身につけさせることのできる単元である。

(2) 系統について



(3) 児童の実態について（在籍数33名）

平成22年度熊本県学力状況調査の定着率を観点ごとに県平均と比較すると、「話す・聞く能力」72.7%（県61.5%）、「書く能力」82.8%（県65.7%）と両観点ともに県平均を上回っている。しかし、設問ごとに分析を行うと

「話すこと・聞くこと」（設問1）◎37.5% ○0% △0% ×62.5% 無答0%

「書くこと」（設問27）◎9.4% ○84.4% △0% ×3.1% 無答3.1%

「書くこと」（設問28）◎43.8% ○28.1% △6.3% ×9.4% 無答12.5%

という結果から、話の意図をとらえながら聞く能力や、資料に示されている情報から課題を見出し、身近な問題と重ねながら自分の考えを書く能力に課題があると考えられる。

また、前単元でのパンフレットを作る学習では、自分の課題に応じて取材して集めた材料からそのまま書き写す児童が多く、目的に応じて本や文章を引用する方法を学ばせる必要がある。

(4) 指導にあたって

ア 意見文を書く目的を、修学旅行でお世話になった被爆体験講話の講師の方にメッセージを送るとし、児童が学習に意欲的に取り組めるようにする。また、意見文からスピーチの学習への接続に関しては、12歳の自分たちから未来の自分にメッセージに送ろうという目的を示し、ビデオ撮影をすることを予告することで、児童の学習への意欲が継続するようにする。

イ 自分の意見に説得力をもたせる資料を集めさせるために、教室に「平和」に関する図書のコーナーを図書指導員と協力して設置し、学習に並行して読書を行わせる。

ウ 意見文やスピーチに説得力を持たせるための構成例や、具体例や本などの文章からの引用の仕方を具体的に指導し、児童に言語活動の具体的な方法が身に付くようにする。

エ 個に応じた指導ができるよう、それぞれがどのような題材をもとに、どのような取材をしているかを把握し、適宜助言を行うようにする。

(5) 情報モラル教育の視点から

ア 本単元は情報モラル教育のモデルカリキュラム「1 情報社会の倫理 b 3-1 情報にも、自他の権利があることを知り、尊重する。」との関連を重視して展開する。

イ 本などの文章から引用する場面では、自分の意見に説得力を持たせるためという目的を明確にさせる。

ウ 実際に引用する場面では、原文に正確に行うことや、引用した部分と自分の考えとの関係を明確にすることに注意する。また、出典を必ず明記すること、引用部分が適切な量になることを指導し、著作権を尊重し、保護する態度が育つようにする。

(6) 人権教育の視点から

互いに書いたものを読み合う中で、一人一人の考えには違いがあることに気付き、お互いの文章のよさを感じ取ったり、考えを広げたりする活動ができるよう、互いに認め合う雰囲気作りを大切にしていく。

3 単元の目標

(1) 「平和」に関して自分の考えたことを伝えたいという願いを持ち、読み手や聞き手に伝わるように根拠となる事実や具体的な事例を引用しながら説得力ある意見文を書こうとしたり、意見を主張しようとしたることができる。

(2) 「平和」をめぐる自分の意見が説得力をもつよう具体例や資料を集め、意見を明確に伝えるために文章全体の効果を考え、意見文を書くことができる

(3) 意見文をもとに、話の構成を工夫しながら場に応じた適切な言葉遣いで意見を主張することができるとともに、話し手の意図をとらえ、自分の意見とくらべながら聞き、助言や提案をすることができる。

(4) 書き言葉と話し言葉の違いに気付いたり、文や文章にはいろいろな構成があることについて理解したりすることができる。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能
<p>話すこと・聞くこと ア「資料を提示しながら説明をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること」 書くこと イ「自分の課題について調べ、意見を記述した文章を書くこと」を通した指導</p>			
<p>① 自分の考えたことを伝えたいという願いをもち、それが伝わるように事実や考えたことなどを関係付けたり比較したりしながら、効果的に書き表そうとしたり、話したりしようとしている。</p>	<p>① 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫している。(イ) ② 自分の意見が伝わるように、声の出し方を工夫したり、言葉を選んだりしている。(イ)。 ③ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べながら考えをまとめている。(エ)</p>	<p>① 自分自身の経験や、読んだ資料、友達との意見の交流などから、意見を述べる文章に書く題材を決めている。(ア) ② 題材に関する情報を集めて自分の考えを明らかにしたり、その考えを支えるための根拠や事例となる材料を集めたりしている。(ア) ③ 意見を述べる文章に必要な構成を考えて、集めた材料を構成している。(イ) ④ 文章や発言を引用したり、自分の考えの根拠となる事実を表す図表やグラフを用いたりして、自分の意見が説得力をもって伝わるように書いている。(エ) ⑤ 書いた文章を読み返し、意見が効果的に表現できているところを確かめたり、意見とそれを支える根拠、具体化するための事例の選択などについて改善すべき点を見つけ、書き直したりしている。(オ)</p>	<p>① 文章には色々な構成があることについて理解し、目的に合った構成を選んで書いている。(イ(キ)) ② 話し言葉と書き言葉とでは、表現上の特質などに違いがあることに気づき、その特質に注意して話したり聞いたりしている。(イ(ア))</p>

5 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意事項	関	読	書	言	評価基準及び評価方法
1	資料「平和のとりでを築く」を読んで感想を書き、学習の流れを見通す。	児童に学習の見通しを持たせ、興味・関心が高まるようにする。	○				関心・意欲・態度① (ノート) 学習課題を理解し、進んで「平和」について考えようとしている。
2	ユネスコ憲章の一文について話し合うことを通して、平和についての自分の考えを持つ。	「平和」を身近な話題と結びつけて考えて行けるように工夫する。			○		書く① (ワークシート) ユネスコ憲章や自分の経験をもとに、意見文に書く題材を書いている。
3 本 時	教科書の意見文の例を読み、意見文の書き方を知る。	意見文の構成と資料の引用とを関連させて話し合わせることで、児童自らの意見文に生かせるようにする。				○	知識・理解・技能① (ワークシート) 文章構成の視点から資料の引用について考えている。
4	平和についての自分の考えの中心を短く文章にまとめ、「仮の要旨」を決める。	第2時で書きまとめたものを一覧表にして配付し、参考にさせる。			○		書く① (ノート) 「仮の要旨」をまとめている。
5 6	意見に説得力を持たせるために具体例や資料を集め、要旨を確定する。	集めた資料が要旨に対して整合性があるかを検討し、資料を選ぶようにさせる。			○		書く② (ノート・観察) 自分の要旨に合った、具体例や資料を集めている。
7 8	意見文の構成を考え、記述する。	見出しを書いたカードを並び替えさせながら、文章構成を考えられるようにする。				○	書く③ (ワークシート) 意見を述べるのに効果的な構成を考えている。 書く④ (ワークシート) 自分の意見が説得力をもつように、正しく文書を引用している。
9	グループで表現や構成について助言し合う。	グループで読み合いながら、意見文が更により内容になるよう助言し合わせる。			○		書く⑤ (発言・観察) 友達の意見文に対する感想や表現の助言を与えている。
10 11	例となるスピーチを聞き、意見文をもとに、スピーチの構成を考える。	書き言葉と話し言葉では、どのように違うかを話し合わせる。		○		○	知識・理解・技能① (ノート) 話し言葉と書き言葉の違いに気付いている。 話す・聞く① (ワークシート) 意見を伝えるために効果的なスピーチ構成を考えている。
12	例となるスピーチを聞き、音声面での工夫を確認する。	音声面で気を付けることを理解し、自分のスピーチに生かすよう助言する。		○			話す・聞く② (ワークシート) スピーチをするときの音声面での工夫を考えている。
13	スピーチの練習をし、よりよいスピーチとなるように助言し合う。	声の出し方の工夫、資料の効果的な使い方など、評価し助言していく。		○			話す・聞く② (観察) 自分の考えが効果的に伝わるように話し方を工夫し、練習している。
14	話し手が何をつたえたいかを考えながら、スピーチを聞き、感想をまとめる。	聞き手として、話し手の意図を聞き取ることに力を入れさせ、感想として聞き取ったことを表現させる。		○			話す・聞く③ (ノート・観察) 自分の意見や根拠と対比しながら、スピーチを聞いている。

6 本時の学習 (3 / 14 時間)

(1) 本時の目標

意見文の構成例を知り、教科書の意見文が資料をどう引用しているかを考えることを通し、説得力ある意見文の構成について理解することができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 ○主な発問 □指示	予想される児童の反応	指導上の留意点・評価	備考
導入	5	1 意見文の構成例を知り、モデルとなる意見文を読む。 ○中原さんの意見文の空いた部分には、何が書かれているでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> 意見文はどのように書くのかな。 空いた部分にはどんなことが書かれているのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を引用して反論に答えている部分を空欄にした教材文を示すことで、児童の意識を焦点化する。 徹底指導 (ポイント) ◎意見文の構成例を視覚的にわかりやすく示し、教材文の構成を捉えられるようにする。 ○実際の本を準備することで、児童に意見文を書くという状況を設定し、児童が意欲的に課題解決を行なえるようにする。 	提示用の教材文
	3	2 本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">中原さんは、反論に答えるためにどちらの資料を引用したか。</div> □意見文の書き方について考えていきましょう。			資料の示す本
展開	5	3 中原さんの構成の要点を押さえ、資料を読む。 □どちらの資料を引用すると、反論に答えることができるか考えましょう。	<ul style="list-style-type: none"> どちらの資料を使ったのだろう。 「身近なところから暴力をなくすこと」というのが中原さんの意見で、身近な暴力事件を根拠にしている。 相手が先に暴力をふるったときはという反論を予想している。 	<ul style="list-style-type: none"> 徹底指導 (ポイント) ◎述べられている意見、根拠となる具体例、予想される反論を教材文から押さえた上で、二つの資料を読ませる。 	ワークシート
	10	4 課題について自分の考えをまとめる。 □どちらの資料を引用したらよいか、自分の考えを書きましょう。そう考えた理由も書きましょう。	<ul style="list-style-type: none"> 二つの資料の違いは何だろう。 身近な暴力をなくすことと関連しているのはどちらかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 能動型学習 (ポイント) ◎ワークシートを工夫し、できるだけ自分の力で考えをまとめられるようにする。また、そう考えた理由を書かせるようにする。話し合いは、まず班で行い、その後全体に広げ、考えが深まるようにする。 	
	15	5 課題について話し合う。 □班ごとに話し合い、意見をまとめ、全体に発表しましょう。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">【言語活動】(設定の意図) 単元を貫く言語活動として設定した「意見文を書く」活動を通して、自分の意見が説得力を持って伝わるように資料を活用し書く能力を身に付けさせる。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 「軍隊をすてた国」であるコスタリカの資料を引用したほうがいいと思います。 「平和を作る教育」の方が、平和の捉え方が似ていると思います。 「子どもたちの戦争」は、戦争を無くすことを直接訴えるのには使えると思います。 	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">◆知識・理解・技能① (ワークシート) B基準：文章構成の視点から資料の引用について考えている。</div> <p>A基準：両方の資料に触れながら、自分の考えをまとめている。 (B基準に達しない児童への手立て) 二つの資料に線を引いたり、班での話し合いの中で学び合わせたりする。</p>	
整理	7	6 自分たちの資料の引用の仕方と比較し、本時のまとめをする。 ○中原さんの引用の仕方と、今までの引用の仕方との違いはなんですか。	<ul style="list-style-type: none"> 今までは、本から書き写していたな。 引用の仕方にも、ルールがあって、それを守ることが著作権を守ることにつながるんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 徹底指導 (ポイント) ◎教材文の引用の仕方と自分たちとを比較させ、引用についてはルールがあり、著作権を尊重することの大切さを押さえる。 	過去の児童作品

7 モデルカリキュラムの位置づけ

情報モラル	道徳、各教科・特別活動 他
a3：発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ。	道徳 男女の友情と協力「言葉のおくりもの」 2-(3) 信頼友情「互いに信頼しあって友情を深め、男女相互に理解し、協力する態度を養う。」
b3：情報に関する自分や他者の権利を尊重する。	道徳 共に生きる「町で出会った車いすの人」 2-(2) 思いやり、親切「生涯を持った人がくらしやすい町をつくって、いこうという心情を育てる。」 国語 町のよさを伝えるパンフレットを作ろう「ようこそ、わたしたちの町へ」 必要な材料を集め、効果的な構成や記述のしかたを考えて、パンフレットを作る。 国語 自分の考えを明確に伝えよう『『平和』について考える』 「平和」をめぐる自分の意見が説得力をもつように具体例や資料を集め、意見を明確に伝えるために文章全体の構成の効果を考えることができる。
c3：情報社会でのルール・マナーを遵守できる。	道徳 規律ある生活「修学旅行の夜」 1-(3)自由・規律「自由の大切さを理解し、自他の自由を尊重するとともに、規律ある行動をしようとする態度を養う。」
d3：情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる。	
e3：情報を正しく安全に利用することに努める。	社会 戦争と人々のくらし アジア・太平洋に広がって行なわれた戦争について調べ、戦争拡大の経緯や国民生活の様子、国内外の被害などについて理解を深めさせる。
f3：安全や健康を害するような行動を抑制できる。	体育 病気の予防「病気の起こり方」 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わり合って起こることを理解する。
g2：生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る。	
h：情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる。	
i2：情報社会の一員として、公共的な意識を持つ。	道徳 よりよい校風「先輩の心を受け継いで」 4-(6)愛校心「最上級生としての役割を自覚し、学校に愛着を持ち、進んで立派な校風を作ろうとする態度を養う。」